

ユートピア主義論に対して

横倉辰次

困った指導理論

わたしは、秋山氏の「ユートピア」論なるものを知ったのは、本紙 100 号掲載の「アナキズムとユートピア」からだ。

この文章からの印象は非常に独善的で老人臭い感じがしたので「これは間違っている。困った指導理論」だと思ったが、あえて反論を書かなかった記情中儀情がある。

前号で再び「ユートピア論」なるものが大きく取りあげられている。「これからの運動」と肩書きつきで、これは困った黙視できない、~~を執筆する~~気持になった。

前号文章は、~~非常に~~^{殊に}慎重にあやまちなく、論旨がその博学振りを示しながら進められている。

それはいわゆるそつのない評論である。何故かというと過去の既成事実の表面をなせているし、批判のみで創造、~~建設~~^{建設}的なものがなく、論者自身の運動論のヒレキがない。これは私流にいうと澤本テリさんの批判で、運動と論者の間にヘダタリのある場合のみ現れる理論だ。換言すれば、デスクのものでありソウゲの塔内からの言葉だ。アナルコサンジカリストに対する断定などは殊にそうだ。

このそつのない文章も後段になり論者自身の革命(?)理論体系になると、その誤ち、セイ弱性を暴露している。100号でも唱えている如く、今後のアナキズム運動というか革命運動というか、そうしたものは小地域のユートピアの建設に最高の努力がはらわれるべきであり、この小ユートピアの連合体が拡大されて世界革命が成就する如く説いている。

これはよほどノンビリした生活環境から生れた論旨であるが、もし今、日本の全アナキストが、~~この~~論旨に賛成したらどうなるだろう。その時は政府も社会党も宗教団体も諸手を挙げて賛成し援助してくれるのではないであ

ろうか。

論者は無血革命を理想としているのかもしれないが、それにしても余りわれわれの敵に対しての認識があまりいのではないだろうか。

「少なくとも一國に単位ユートピアの数が増大して資本主義や他の社会主義に成り代ってゆける時が来るまでは…」等というが、これは現在の全労働組合が自覚してゼネストを決行する時が来るだろうというよりもはるかに難事であり安易な空想論ではないだろうか。そのようになった時までは、「現実の政治と関連交渉を保持しなければならない」などは正に無意識的スパイ行いであり反革命だ。一小國のユートピアが出来たとしてそれが周囲に影響をおよぼし出した時に、他の資本主義共産主義の國家が沈黙すると思われるのが不思議な気さえする。

スペイン革命の教訓

1936年のスペインの革命政府が圧殺された如くされるであろうし、現在でも大国は反対政権が他の群小國に樹立されるに対して黙許しているであろうか。

アナキストの敵は無血革命を許しはしないであろう。敵の王座、権力の座が話し合いで壊滅できるだろうかと思う運動手段を是とする者があるとすれば、私はそれを宗教家と呼ぶだろう。

アナキズム革命がユートピア建設で非闘争で完成し得ると説く思想論理は、私にはどうしてもうなずけないし、説くものがいれば反対し闘う、ユートピアが小さくともあり、それがアナキズムだと満足するなら、もう私もアナキズムの社会を持っている。外教に攻撃されながらも、わが家庭である。

限られた者たちだけでは満足せぬ、そこに革命があるのではないだろうか。でなければ若人達は、アナキスト連盟に参加しないだろう、アナキストはサン情な老人の群れになってしまうだろう。

(自由連合 第106号 1965年2月)

改革者は常にスパイ？

横倉辰次

秋山三喜雄

第106号本紙上で横倉氏から拙論に対する反論が出ましたのでお答えします。

私は仰せのように博学でも何でもありません。むしろ常にその淺学を嘆いているものです。只40年に近い間、馬鹿者のように、文字通りただ孤りで、アナキズムのあるべき形を追求し続けて来ました。つまり文献も余り読まず、一人で自問自答して来たのです。その到達点が、このユートピズムだったのです。私は確かに「勇敢」ではなかった、だが勇敢でなければ理想社会建設に参加できないのでは、それは人類が熱望した夢の名に値いしないと思います。私は、今からわずか数年前にやっと確信に達したのでした。クロボトキンが説いている農工的小社会が、世界の1, 2の地方で芽を吹き出して来た事実を知ったし、その深い意義の究明者マルチン・ブーバーの「ユートピアの途」の訳書にも接したからでした。

私はこの道が唯一か否かは断定できません。が、それが少なくとも確実の道の一つであることはまちがいないとしています。

これに対する貴下の反論は、これから断続するであろう長い論争のはじまりであると思います。しかし、その論争のやりとりは、かつての自分をも含めてアナキスト達がよく陥っていた、あのめじりを決し、肩を**むや**かした姿勢を能う限りセン脱したいものだと思います。そのために得たものはキン少でしたから。幸徳の筆ボウの鋭さには大きな魅力がありました。その彼が、**アナキストは**本来最も平和的な人間なのだと書いているし、敬仰的であるクロボトキンに最高の模範を見ることのできるの嬉しい限りではありませんか。

私はかつて己が民族を愛することを罪惡のように考えていたことがあります。私は民族と国民の区別がよくわからなかったのです。国民という語の中にさえ、それ故民族の觀念が混入しているのを見逃せません。己が民族を愛さないでどうしてその民族に信用せられ、**彼等**と共に己れをし合わせにすることができましょう。私は日本語を愛します。そのわけは言語こそ民族集団

の中核をなすものであるからです。だからといってこの民族という言葉が含む危険性に警戒しなかったら、私たちの望む世界の理想化は画ペイに帰すること多くの人の指摘通りでありましょう。バクーニンもクロボトキンもロシア民族をいかに深く愛したことでしょう。しかもそれは人類愛をいささかも妨げなかった。

私たちの憎むのは権力であり、財産の私有制です。それは悪から来ているから。これを亡くすることが目的でした。ところが、決定論者であることを得ない私たちは、この悪を善に置き換えなければなりません。悪を以って善を生むことは人間の世界では不可能です。権力を滅すために権力を用いることの不可能なのは、私たちの眼前で、ソ連と中共の革命が示してくれました。歴史は試行錯誤の記録であって、必然をそこ内から見出そうと試みるのは科学の限界を知らぬためです。マルクスの学問的センスに圧倒せられてその欠如に気付かないうちは人類は決して自らを束縛から解放することができません。

私の唱える方法は老子的ウ遠だと貴下はいわれます。だが社会の構造的更新（ブーバー用語の長谷川進訳）は一世代や二世代の専業であるはずがありません。ソ連が今日到達した程度の改革でも50年を要したではありませんか。速いに越したことはないが永くかかったところで致しかたないでしょう。こういう問題は歴史的というよりも文化人類学的にみななければならないと考えます。ロゴス的なものの見方に無上の権威を与えている20世紀までの人類がその非をみるにはまだ相当の年月を要することでありましょう。ロゴスが人間を過まかせ始めてから恐らくまだ数千年しか経っていないのではないですか。パトスとロゴスがあるべき調和に達するにはまだ長い時間が必要なのはこのためです。

次に貴下に関いたいのは、アナキズムとは権力や財産私有の悪を否定するための行動なのか、それともそれが実現した結果のことか、ということです。貴下はどうやら前者に、私は後者に重点を置いているようです。結果に結びつかぬ行動を余り買い被ってはいられません。テロリズムは失敗でした。階級闘争もまたすでに失敗であることを露わにしました。流血革命もだめです。それは権力者の交代でしかないではありませんか。革命政権を既成政権が黙視しないだろうといわれますが多分そうでしょう。フランス大革命にあるいはレーニンの革命に列強が干渉したように。ユートピアは、オウエンやフーリエやクロボトキンの流れのことを私は指していますが、これがゲマインシャフトを志向

しているのは断わるに及ばないからそれは政権を持ちません。自由連合とその又連合、その上の連合があるだけですが、これも既成の国家権力が黙視しないかも知れません。しかしこれは彼等の直接のライバルでないだけ、その憂憤はいく分減るだろうと私は見込んでいます。少なくとも日本国憲法はその程度の民主主義を保証していると思います。

貴下の家族は小さい共産制の中にいるのは確かです。しかしこれは遍念のゲインシャフトを拡充してはいけません。無権力で、従って離合共に自由で共産の行なわれる少なくとも第一。第二次生産と消費の自由が内部で確立される集団でなければなりません。

私がスパイとせられるべきか否かは、私の理論が証明します。

(自由連合 第107号 1965年3月)

今日只今の運動を

横倉辰次

どうも理論闘争は不得位なのですが、反論されたのでペンを執ります。

「私は確かに勇敢ではなかった。だが勇敢でなければ理想社会建設に参加できないのでは、それは人類が熱望した夢の名に値しないと思います」と言う言葉からすでに私にはひっかかります。勇敢でなくて何ができましょう。まして革命への運動が、もし勇敢ではなくなったら、如何に過去に輝かしい実績や理論があった革命家もそれはすでに廢人です。ですから若さが尊く、青春期に悪く妥協したり世智にたけてもらいたくないのです。あらゆる意味で勇敢でなくて出来る仕事はないでしょう。勇敢とは肉体的のみではなく精神的にもです。

次に「アナキストたちがよく陥っていた、あのめじりを決し、肩をそびやかした姿勢を能う限りゼン脱したいものだと思います」。いかにも理性的な言葉のようですが、過去に於てそうしながら革命的行動がともなわなかった事は小生もうなずけます。が、しかし冷性と無気力、非行動は別です。行動が活発であればそれだけ姿勢もただけしくなるはずです(と申しても決して私が猛々しいとはいいません)。否、そうなれんのを悲しく思います。老令というのは社会の汚濁に馴染んで無感動になるからです。(もち論戦前の略屋青年のハツタリはダ棄すべきですが)

安保闘争で黒旗をかかげて以後余り感激したことはありません。

「私は日本語を愛します。そのわけは言語こそ民族集団の中核をなすものであるからです。」これだけは全面的に反対です。私は日本語を愛せません。**むしろ**これがなくて、人類が皆、同じ言葉。文字を使用していたら、どんなによいかと思います。英語がしゃべれず、エスペラントを勉強しなかった自分を悔いています。

もし各民族が各個別の言葉を持たず、地球上の人類が同じ言葉をしゃべり書いていたら、もっとすばらしい世界になっているでしょう。現在の日本語の変化、その不備から文章一つでも日本語だけでは表現しえずパトス・ロゴス、ゲマインシャフトといった言葉を使わねばならぬのを不便に思い、そこに断層の生じるのを悲しみます。

「次に貴下に問いたいのは、アナキズムとは権力や財産私有の悪を否定するための行動なのか、それともそれが実現した結果のことかということです。一云云」

これは、しいて分るとすれば、貴下のいう前者は今日のアナキストであり、後者はアナキズムなのではないでしょうか、理想を実現する為の行動と理想を別個には出来ないでしょう。

すでに理想が実現されているように考える事に間違いがあるのではないのでしょうか。

「... 少なくとも日本国憲法はその程度の民主主義を保証していると思います」

これは今日の世相・潮流に対する受感の問題です。今日の憲法をどのように不便と思い改悪しようとしている階級勢力が、それを今法的非合法的に改悪（無視もしています）しつつあるかを考えれば判る事です。その一例に第9条の戦争放棄がどんなにあやふやになりつつあるか、日本は軍隊を持たないなんてすでに無視されているのを見れば考えねばならないでしょう（自衛隊が軍隊でないと思う人間がいれば、余程のお人よしか無知で）言わずもがなの事です。法律とは常に民衆のためではなく支配者のためにあるものです。それがヒヨンな事から民衆のためになる個条が与えられたからといって、安心しているのは危険です。

終末の言葉。

「私がスパイとせられるべきか否かは、私の理論が証明します」

出来れば理論でなく行動が証明すべきでありたいです。理論なんかは、それ程信用しません。必要なのは行動です、日本アナキスト連盟に必要なのは理論を行動に移し得る人間なのです。とくに今日はその感が痛切です。

（自由連合 第108号 昭和40年4月）